

男声合唱団ダンネリオン演奏会 2020 の開催について

事務局 宮下一夫

私たち男声合唱団ダンネリオンは 2021 年 2 月 28 日に演奏会を行いました。当初、昨年 6 月に多くの賛助出演をお願いしての予定でしたが、このコロナ禍のため本年 2 月に延期し単独の演奏会となりました。

ご存知の通り、このコロナ禍で昨年 3 月からは全ての合唱団の練習会や演奏会は中止になりました。コロナ禍時代の合唱演奏会について「ハーモニーホールふくい」と合唱団が話し合いを重ねてきました。合唱団は本番もマスク着用で演奏を行い、新しい形の合唱コンサートをお客様と共に作り上げていく演奏会としました。そのため、今回の演奏会のテーマを「～コロナとの共生、合唱の未来に向けて～」としました。

練習再開後の活動について

私たちのメインの練習会場である「ハーモニーホールふくい」では全国に先駆けて、音楽活動再開に向けて感染症専門の医師との協力で「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策指針～音楽堂ではうつらない、うつさない～」(<https://www.hhf.jp/covid19/>)の音楽活動の指針がいち早く出され、「音楽文化に携わる皆様と、文化施設管理者のための研修会」も行われました。

私たちはこの指針と次のような行動基準を厳守し昨年 6/24 から練習を再開しました。

- ① 入館時に非接触検温、「名前・連絡先」の記入、手指衛生（アルコール消毒）、マスク着用、1m 以上のフィジカル・ディスタンスを厳守（ここまでの行動をホール側もチェックする。ホールの開館時間 9:00～22:00 は出入口に職員又は守衛が常駐していて洩れなくチェックしている。この病院レベルの対応が「ハーモニーホールふくい」のコロナ対策への本気度が伝わり安心して練習会に望めている）
- ② 合唱練習に加えて合唱を通しての交流を深めることも大切ですが、この交流を深めることが合唱練習以上に感染拡大をもたらすことが考えられるので一人ひとりが高い意識を持つこと
- ③ 20 名前後の合唱団であるが練習室を 20～50 名の練習室から 100 名以上の練習室に変更した
- ④ マスクを着用し左右 1.5m 前後 2m の距離を保ち一方向を向いての練習を行う
- ⑤ 換気は備え付けの空調設備とサーキュレーターを稼働して行い、1 時間 1 回 10 分程度の休憩を行う
- ⑥ 練習室やトイレの出入り時など、行動の前後に必ず手指衛生を行う

合唱への風当たりは大変厳しいですが、コロナ禍での合唱活動の基本は「手指衛生」「ディスタンス」「換気」そして「マスク着用」を愚直に徹底するしかありません。「マスク着用」の合唱をニューノーマルと受け入れて活動を続ければ、コロナ後は輝く合唱の未来が待っていてくれるはずです。感染者数の数字の多さのみの報道で漠然とした不安感だけが醸成されますが、私たちは「ハーモニーホールふくい」の指針を愚直に徹底し、正しく恐れ、安全安心を第一に進めてきました。

演奏会に向けて

それでも、やはり演奏会の真中に置くべきは音楽です。毎週、2 時間 30 分の練習に加え、演奏会前 3 回の集中練習で聴いていただけるお客様の心に届くための音楽づくりをしてきました。ここで少し当合唱団の状況を記したいと思います。

男声合唱団ダンネリオンは平成 8 年に結成され 25 周年を迎えます。ダンネリオンの結成当初は団員も 20 ～ 30 名の県内でも大きな合唱団だったようです。その後、団員の転勤や結婚そして年齢の進行に伴う仕事量

の増加などで団員が減少し十分な活動が出来ない時期もありました。私が入団した時は6～7名のメンバーでしたが、コンクール、イベント等の参加など前向きな活動してきました。

ここ5年の間に友好合唱団から応援メンバーを募ったり、ふくいの第九や武生国際音楽祭に参加されている方を誘ったりして、ここにきて、男声合唱団としての形もできてきたように思います。また、3年前より合唱団のレベルアップのために月1回プロのヴォイストレーナーをお願いし声づくりのお手伝いをお願いしました。今回の演奏会ではその木津弘美さんに客演指揮をお願いし総員24名で演奏することになりました。

演奏会会場について

コロナ禍での演奏会の延期で会場を改めて決める際、私たちには分不相応なのですが、安全安心も考慮に入れ528席の小ホールではなく、1256席の大ホールを会場としました。結果的には550名ものお客様に恵まれ、お客さま同士のディスタンスも図ることができました。

プログラムについて

こんなコロナ禍の中で頑張って練習して来た演奏会ですので、ただの曲順、楽曲紹介という陳腐なペーパーではなく、思い出に残るプログラムにして私達の足跡をお客様に持って帰って読んでもらいたいプログラムを作成しました。内容的には次の通りです。

- ① 団長の挨拶
- ② 友好合唱団からのメッセージ
- ③ 客演指揮者からのメッセージとプロフィール
- ④ 曲順と曲紹介
- ⑤ 歌詞（マスク着用による言葉の伝わりを心配し、全ての楽曲の歌詞を記した。ただ、多額の著作権料が発生した）
- ⑥ メンバー紹介（単なるパートと氏名の記入ではなく、顔写真と共に「自己紹介」「合唱との出会い」「曲に対する思い入れ」等、ダンネリオンでの楽しみ方を徒然なままに300字前後で書いてもらいました）

演奏会当日について

今までは開演30分前の開場でしたが、分散入場を期待して60分前の開場とした。結果的には550名の来場者を密にならずお迎えすることができました。

また、お客様には次のお願いをするとともに、お客様の感染対策の行動支援のためのスタッフを配置した。

- ①ハーモニーホール入館に際し、必ずマスク着用のうえ手指消毒、検温をお願いしました。（スタッフ2名を配置）
- ②大ホール入場に際し、チケットの裏面に連絡先を記入頂き、半券をご自身でチケットボックスに入れてもらった。また、プログラムはご自身で取っていただいた。（スタッフ2名を配置）チケット販売時に受付での密を避けるため事前に連絡先を記入してもらうように依頼した。
- ③ホワイエ等でのお客様同士が密にならないように注意お願いをした。（見回り、密回避のスタッフを2名配置）
- ④トイレ使用時は手指消毒後にご使用すること、特に休憩時は密になるのでフィジカルディスタンスの厳守をお願いした。（各トイレ男女2ヶ所計4名の専用スタッフを常時配置）
- ⑤終演時の退場時にも密が発生します。司会者から分散退場をお願いし、お座席の退席指示があるまではお席でお待ちいただいた。退場のルートをロープで示し、手指衛生を必ず行い帰途についてもらいました。

以上のように感染防止対策のスタッフとして10名を配置、通常の演奏会より2倍のスタッフを要した。

客席について

ホール側としては、会場でのマスク着用を義務付け強制換気が出来ているので客席は100%使用可の基準ではあったが、合唱団内では客席を一つ置きにすべきではないかとの意見も根強く、結局次のようなアナウンスと会場ドア前の掲示とした。

「本日は、全席を、自由席にてご利用いただいております。お座りの際、ソーシャルディスタンスを保つため、隣の方との間は、一定の間隔を空けてお座りください。ただし、ご家族・お友達など、日頃から一緒にいる方や、お付き添いの方などは、お隣同士にお座りいただいて構いません。ホール内では常にマスクをご着用いただき、大声での会話はご遠慮ください。」

演奏会当日の出演者およびスタッフに対して

ステージでの演奏は添付レイアウトの通りマスク着用で左右1.5m、前後2mで行った。

出演者は演奏時よりも楽屋でのリスクが高いため、昼食会場は専用の部屋を用意した。また、会場スタッフや出演者も常時マスクの着用や手指消毒など、感染症対策を講じました。

演奏会当日のプログラム

男声合唱団ダンネリオン演奏会 2020

2021年2月28日(日) 13:00 開場 14:00 開演 16:00 終演

ハーモニーホールふくい 大ホール

オープニング 「わが歌 (Das Lied)」

第一ステージ 男声合唱組曲「北国」(改訂版) 丸山薫作詞 多田武彦作曲

第二ステージ ～未来に向かって～として「ほらね、」「夜明けから日暮れまで」「若者たち」

第三ステージ ～信長貴富編曲の「心にしみる歌」～として「生まれ来る子供たちのために」「サボテンの花」「ヨイトマケの唄」「時代」(客演指揮 木津弘美)

アンコール 「夕焼小焼」

終演後、通常のホワイエでのお見送りは密になるのでできません。代わりに分散退場時にステージ上で「遙かな友に」を繰り返し歌いお見送りに替えました。

観客動員の営業活動について

コロナ禍での観客減少にも大変危惧するところでありました。そこで、県内20数団体の合唱団の練習会にお邪魔をして演奏会のご案内をして廻りました。どの合唱団も感染を恐れる団員の休団で70%ほどになっているものの、感染対策をしっかりしマスク着用、ディスタンスを取っての前向きに練習を行っておられました。皆さんどうしたら演奏会、発表会が再開できるのかと、皆さんとの意見交換を盛んに行い多くのエールを頂きました。その皆さんの熱い想いが演奏会当日に550名もの観客が来ていただいた背景の一つであったと思います。

アンケートより(抜粋)

- ・同じ合唱をしている仲間として、熱いものがこみ上げました。大変なご苦労があったと思います。今日は素晴らしい演奏会でした。ありがとうございます。(男30代合唱経験有)
- ・困難な中ようこそお開きくださいました。ありがとうございます。素晴らしいひと時をありがとうございました。(女60代合唱経験無)
- ・マスクをしておの練習、本番は大変だったと思います。でも団員さんたちの「歌が好き!」と体いっぱい表現される姿を見て、どんな時も自分らしく!との思いが第一と感じました。(女30代合唱経験有)

- コロナで軒並み中止になっているので、寂しく思っていました。ですので、今回のように予防対策も厳重に行い開催してくださりとてうれしい。（女30代合唱経験無）
- コロナ禍ですっかり合唱から遠のいてしまいどこことなく淋しい日々でしたが、今日の演奏会に来させていただいたことで、早く合唱を再開したいな—と思いました。コロナ禍のなか練習もどんなにか大変な中とても素晴らしかったです。（女50代合唱経験有）
- 今回このような演奏会を開催するにあたり、多くの勇気と多くの準備等大変だったと思います。開催してくださりありがとうございました。歌っていいですね生きていけることの喜びを感じています。（女60代合唱経験有）
- 合唱文化を消さないためにもこの時期の開催は素晴らしいことだと思います。（男30代合唱経験有）

おわりに

コロナ禍での合唱演奏会の基準が非常に曖昧で結果的に各合唱団任せあるいはホール任せになっている。「ハーモニーホールふくい」のようにしっかりした基準づくりをされているホールは少ない。コロナ禍時代の合唱演奏会では少なくとも最低マスク着用 1.5mの間隔で行う等の具体的で行動レベルの基準が必要だと思います。自主管理（お願いベース）ではなく、毅然とした具体的な行動レベルの基準が今後の合唱界発展のために今必要とされている。



